

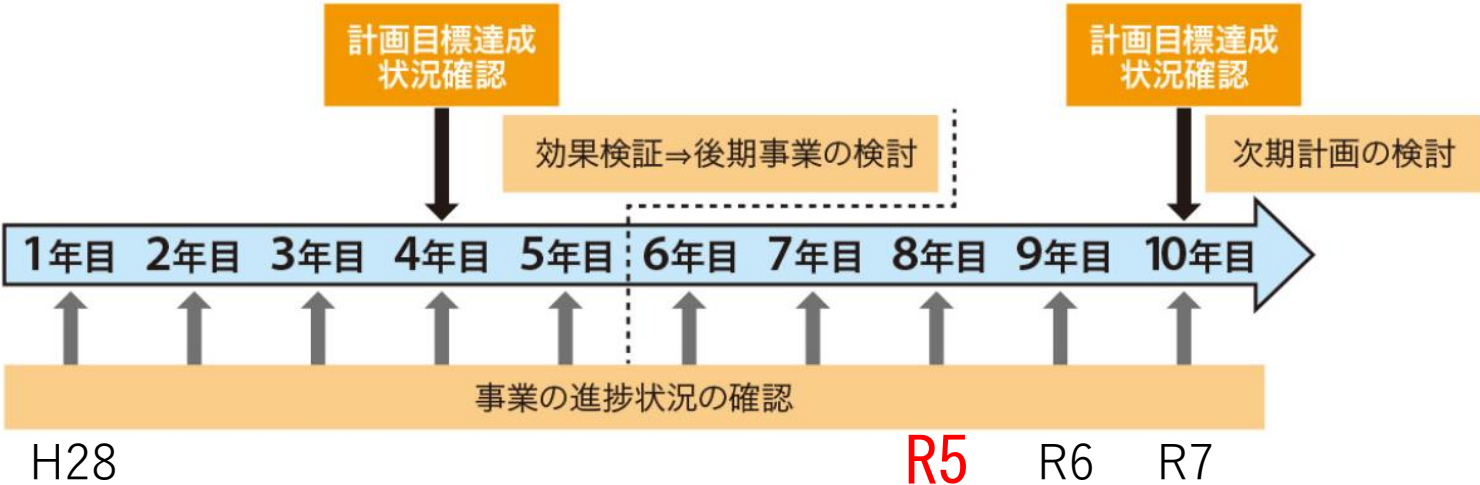
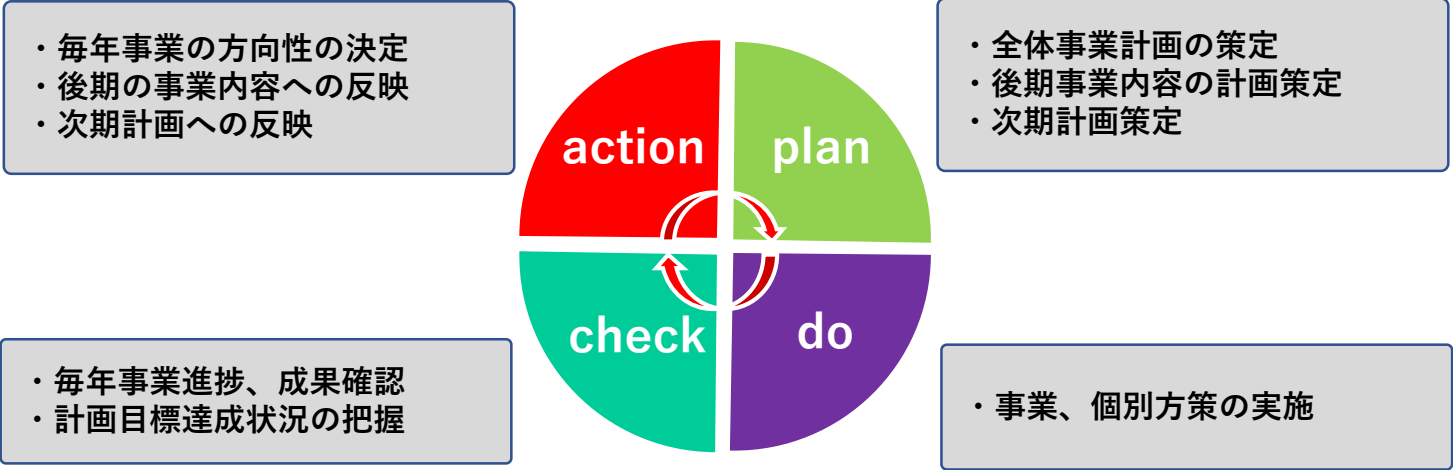
**さいたまはーとの改正について
（前回会議までのふりかえりと今回会議での議題）**

**令和6年度第2回
さいたまはーと推進協議会**

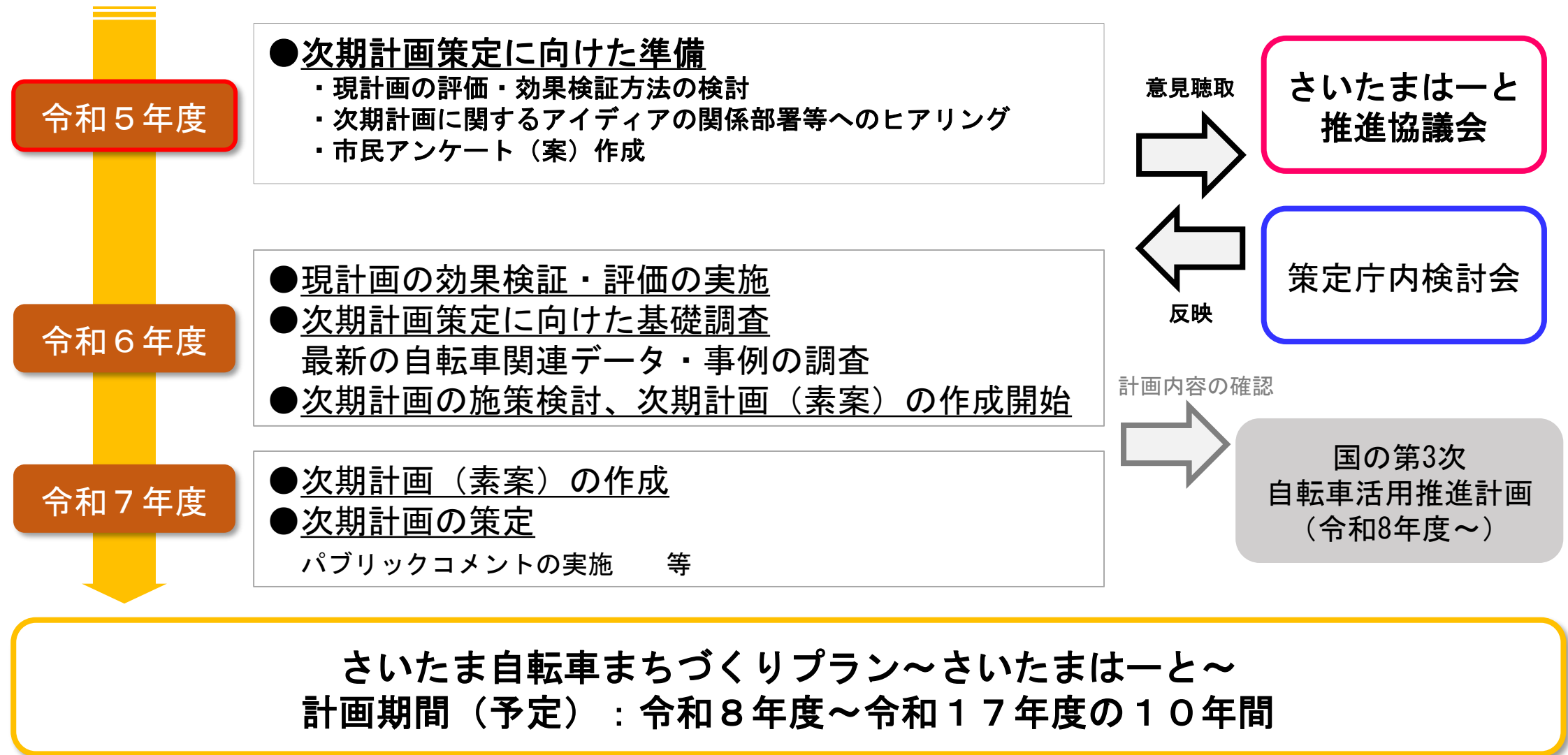
計画の推進方法

- P D C Aサイクルを回し進捗管理し、5年間の取組を1つの区切りとして、事業成果や目標の達成状況を確認し、見直しや次期計画へ反映

P D C Aサイクルによる進捗管理



次期計画策定の進め方（体制）



次期計画策定の進め方（検証方法）

<計画に反映する事項>

自転車利用環境の変化

本プランの策定時と比較し、自転車の利用状況や環境の変化を検証。

- 主な検証項目
- ・自転車を取り巻く社会環境の変化
 - ・自転車の利用や事故の変化
 - ・サイクリングやシェアサイクルの状況

各施策の効果検証

各施策の進捗状況を把握するとともに、施策を展開することによる効果等の検証を実施。

- 主な検証項目
- ・施策の実施状況
 - ・成果指標の達成状況
 - ・課題や改善内容

市民アンケートの実施

- 期 間 令和6年第2四半期実施
- 対象者 前回実績より、市内在住6,000人へ配布を想定（無作為抽出、郵送）

- 主なアンケート項目
- ・自転車利用環境の満足度
 - ・実施中・新たな施策に対する重要度など

【将来像】人と環境にやさしい 安全で元気な自転車のまち さいたま

【計画目標】 自転車利用者増加、自転車事故減少、市民満足度向上

【施策】・現行施策の実施方針検討（拡大、継続、統合・縮小）
・新たな施策検討



第2次さいたま自転車まちづくりプラン
～さいたまはーと～
（計画期間：令和8年度～令和17年度）

<整合を図る事項>

自転車活用推進計画

国土交通省にて策定した「自転車活用推進計画」及び、令和7年度に改定する本計画の動向を注視。

- 現自転車活用推進計画の特徴
- ・通行空間等の利用環境から、観光、健康、安全まで、幅広い自転車の活用推進を目指す
 - ・自転車関連の最上位の計画として、国、自治体、利用者、事業者の協力・連携が求められている
 - ・現計画は令和7年度まで

自転車まちづくり条例

自転車まちづくりの基本理念や、市・利用者・事業者・市民等の責務の明確化（教育、ヘルメット着用、保険加入等）

さいたま市関連計画

- さいたま市総合振興計画
- さいたまSMARTプラン
- さいたま市地域公共交通計画
- さいたま市都市交通戦略
- など

1 次期計画改定の進め方（検証の流れ）

①改定作業の事前準備

- 計画目標の評価・分析手法（案）の作成
- 市民アンケート調査（案）の作成

②現状・課題の整理

今回会議の議題

1) 自転車利用に関する 情報・データの収集・整理

- ・ 市民アンケート調査の実施（自転車利用状況・満足度、ニーズ等把握）
 - ・ さいたま市の特徴整理（地理、人口構成や推移）
 - ・ 国・県の関連法令・条例・計画の整理
 - ・ 市の関連条例・計画の整理
- （主に整合を図ることが目的）
- ・ 自転車利用環境の変化
 - ・ 全国的な自転車関連行政の動向（例：国や世界の脱炭素化の推進状況や自転車施策のトレンドなど）
 - ・ 自転車利用状況等のデータ
 - ・ 先進事例等の把握

2) 現計画の評価・分析

- 目 標（事故件数，自転車利用者数※，市民満足度）
 - 方 策（活動指標）
- 確認・評価、 要因分析
- 確認・評価（R5年度までの毎年の確認結果の積み上げ）、 要因分析

3) 課題の整理

さいたま市の自転車政策における課題整理

③将来像の検証

変更の必要性検証・修正案作成

協議会での意見徴収

④目標の検証

変更の必要性検証・修正案作成

協議会での意見徴収

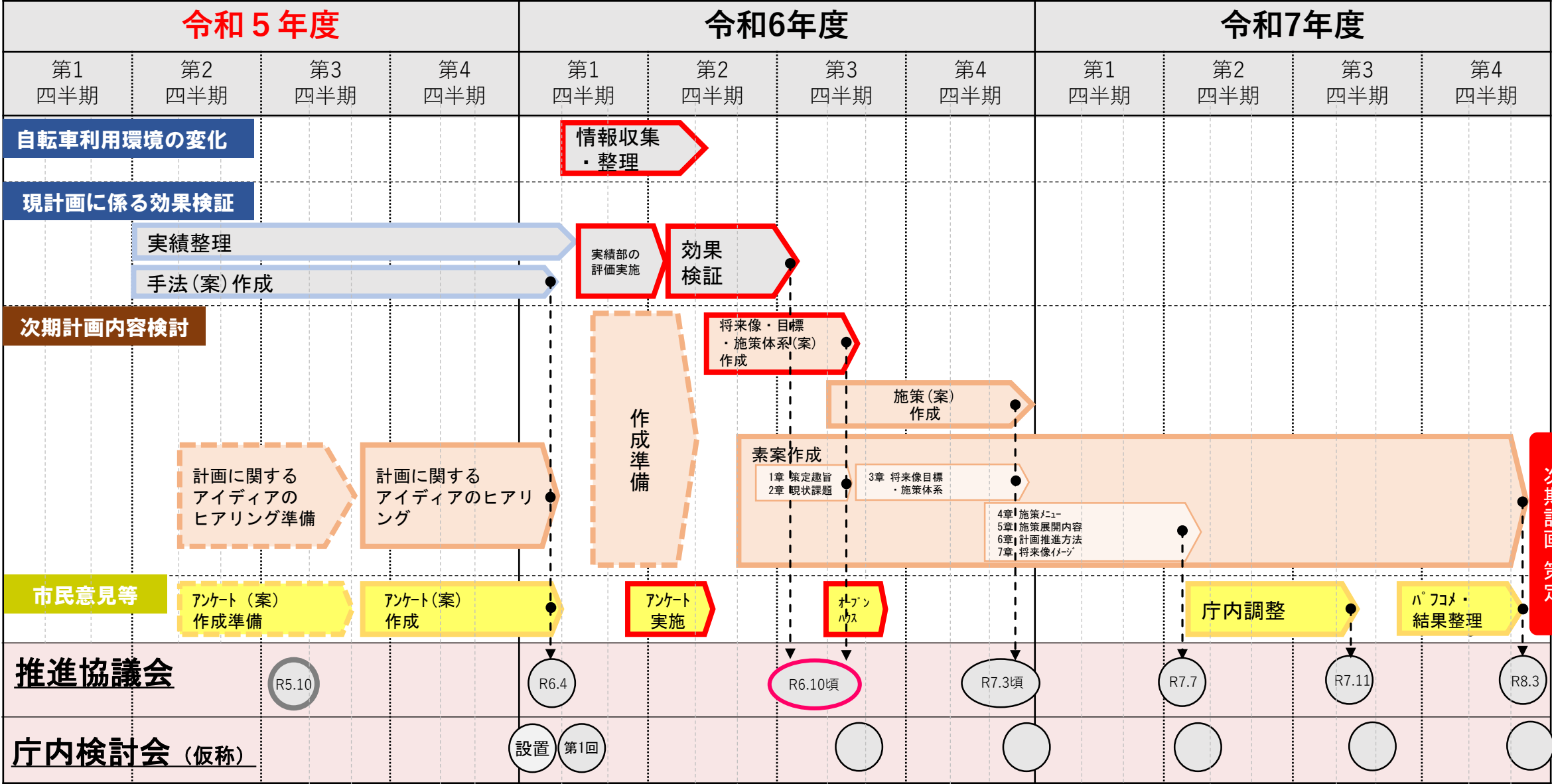
・・・目標と方策のたたき台提示想定

⑤方策の検証

継続・拡大・統合・新規等検討

協議会での意見徴収

次期計画策定の進め方（検証スケジュール）



前回（第1回）協議会での主な意見と対応状況（概要版）

前回協議会での主な意見		対応状況
分類	代表的な具体的意見	
アンケートの 構成・項目	・最後まで回答しやすいように分岐ルートを作るなど工夫するとよい ・今後の自転車活用の方向性を聞く質問を追加したらどうか ・自転車を使う頻度などは具体的な数値を入れてもらうと分析しやすい	反映（参考資料 1,2参照）
アンケートの 整理方法	・全体合計の中で偏った層の母数が多い場合、補正をしたほうが正しく市民の意見を捉えることができる。	反映（参考資料 3 参照） → 結果として補正前後で大きな傾向の差は無し
現計画の評価方法	・ 評価基準が厳しい。行政は努力しているのでもう少し柔軟に対応できるとよい。 ・ 単に評価をして終わらせるのではなく、その結果を分析して次の計画に繋げていくことが大事。	・ 評価指標の達成状況と各種データを用いて問題点・課題を整理。 ↓ 課題解決にむけて効果的な方策を今後検討 （評価基準の設定や評価指標の変更はせず、方策改善で対応）
計画の評価指標	・ より具体的・効果的な施策につながるので、評価指標を見直してもよいのではないか。	
計画全体に関する事項	・ 車、自転車、歩行者、公共交通の関係性の理解を浸透させる都市構造にする必要がある。徒歩や自転車だけで暮らせるまちが実現できるとよい。	課題に反映（資料2参照）
個別方策	・ 生活道路にも矢羽根の整備を検討する必要があるのではないか。	次回会議で議論を予定